

定通振会報

長野県松本筑摩高等学校

定通振興会報

令和3年(2021年)

2月20日発行 第51号

今までを振り返って

教育振興会会長 鳥羽 雅代

今年の1年間は、教育振興会としてほとんど活動の無い1年でした。色々な立場や場所で多くの皆様が大変な思いをされたことを耳にしました。私は少し影響があったものの仕事はありました。保護者の皆様の中には、大変だった方もいらっしゃると思います。また、子供達にとっても、昨年の卒業式は保護者が出席できなかったり、学校の活動やイベント等もほとんどが中止されたりと心が痛くなる思いでした。しかたがないと言ってしまうえばそうなのですが、何とかできなかったのかと思います。私自身も何かお手伝いができなかったのかと反省しております。子供達のために、1つでも何かやるべきではなかったのではと…。

まだまだ、新型コロナウイルスが終息には向かわず、猛威を振るっている現状です。感染防止に向けて、取り組んでいかなければならない事は、私自身実行したいと思いますし、皆様にもお体だけは気をつけて頂きたいと思います。

さて、私事ではありますが、振興会の副会長を2年、会長を7年やらせて頂きました。この間、筑摩高校で色々学び、中信・県P・北信越・全国と連合会に行かせて頂き、他校の皆様と多くのコミュニケーションもとれました。そのお陰で、3つの委員会を立ち上げることができました。その時の副会長さんの協力もとても大きかったと思います。本当に感謝しています。7年前、井上保会長さんに「鳥羽さん。お願いね。頑張るってね。鳥羽さんのやりたいようにやっていけばいいから」と肩を叩かれたときはこれからどうやっていこうと、不安のスタートでした。今はこの役を引き受けて本当に、よかったと思っています。保護者の皆様にも色々ご迷惑、ご協力を頂きました。本当にありがとうございました。令和3年、新しい年を迎えて、これから筑摩高校も新しくスタートして一年となります。今年は50周年のイベントがあります。というか今までのような生活にもどって欲しいです。まだ、分かりませんが？

最後になりましたが、皆様にとって今年一年がよりよいものになるよう心より願っております。私にとって、筑摩高校は私を支えて頂いた大切な出会いの場所になりました。湯本校長先生、五明教頭先生、諸先生方、本当にお世話になりました。



筑摩での学び

校長 湯本 武利

日頃より、教育振興会会員の皆様には本校の教育活動にご理解とご協力を賜り心より感謝を申し上げます。

例年会員の皆様に多大なご協力をいただいている「環境整備作業」や「文化祭での焼きそば出店」をコロナ禍により、今年度は中止の判断をさせていただきました。本来であればこの紙面をお借りして御礼の言葉を添えさせていただきながら事業について触れさせていただくところですが、誠に残念な結果となってしまいました。暑い中、会員同士で声を掛け合い植栽の整備に集中される姿、また、くれき野祭で生徒と楽しく談笑しながら温かな表情で焼きそばを提供される姿が浮かんで参ります。来年微塵の不安もなく実施できることを願うばかりです。

今年は、一斉休業により学習活動のスタートが遅れ、3密を避けるため様々な取り組みに制限がかかりました。しかし、生徒たちはこの困難な状況をよく理解し、感染予防に努めながら日常の生活を大切に捉え、自己の未来を切り拓く力を蓄えるために学習活動に向かった一年となりました。放送による生徒総会や2会場に分かれて実施したくれき野祭(午前午後部)、くれき野祭に代わるハロウィンイベントの実施(夜間部)、安全確保を模索しながらまとめを行った文化発表(通信制)、総体の代替大会となった秋季体育大会への参加等々、生徒たちはかつて経験したことのない課題に対し、大きな不安を感じながらも暗中模索する中で自ら光を見出し、若者らしい姿で主体的に取り組んできました。立派な姿でした。

ちょうど今、「はやぶさ2」の帰還が世界中で大きな話題となっています。太陽系宇宙の成り立ち、生命の起源というかつて人類が成し遂げていないテーマの解明に挑み、私たちには想像もつかない幾多の失敗や試練・困難を乗り越え帰還を果たした「はやぶさ2」の姿は、現世の困難の中にも光と希望を感じさせてくれました。地上が歓喜に沸く中で、「はやぶさ2」はすぐに次の100億キロ超のミッション、新たな小惑星の探査にひとり旅立っています。たくさんの人々の夢や期待を背負うその姿は、困難な世の中にあってもひとり社会へと巣立ってゆく若者を、はるかかなたからも応援してくれているように思われなりません。

「明けない夜はない」という言葉が最近よく聞かれます。「筑摩高生」のこの一年間の取り組み、そして「はやぶさ2」。これらの事実に勇気もらい、本校に在籍する生徒一人ひとりが、学校生活を通して自己の未来を切り拓く力を涵養することができるよう今後も振興会の皆様とともに取り組んで参りたいと思います。

支え合い、赦し合える社会に

通信制教頭 小林 弘己

今年度は、学校現場もコロナに終始した一年でした。学校休業に始まり、創立50周年記念式典を一年順延するなど、本校でも初めての経験と決断が続く場面が沢山ありました。

しかし、学校が休業になったりステイホームが奨励されたりすることで、逆に家族や友人の大切さを見直す貴重な機会になったのではないのでしょうか。オンラインがもてはやされていますが、これもまた、直接人と人が触れ合うことができる生の尊さを確認させてくれます。

今私たちが向き合っているのは、前例がなく教科書や正解のない世界です。どんなに丁寧に考えても、判断を間違えることがあって当たり前です。国のやり方を批判することは簡単ですが、当のテレビ・新聞にも正解があるわけではありません。また、個人レベルでどんなに気をつけていても感染のリスクがあり、感染した人を責めるべきではありません。こんな時こそ、お互いを赦し合うことができる寛容な社会であってほしいものだと思います。

通信制は、ある意味においてやり直しの場であり、入学生の80%が転入生・編入生です。若い時には失敗するのが当たり前。その失敗を責めるのではなく、今を一所懸命に生き、新しい出会いを大切にする姿を応援したいと思います。大人である私たちは、おらかな気持ちでその成長を見守りたいものです。そもそも高校は、社会に出る前段階で失敗を経験するためにあるのですから。

9月に通信制を卒業したある生徒が、「私は筑摩高校で人に頼ることの大切さを学びました。」と話してくれました。前籍校では何もかも自分だけで抱え込もうとしていたようです。人が一人だけでできることにはおのずと限りがあります。社会は支え合いできているのですから、自分の凸凹を受け止め、必要なところは誰かを頼ればいい。その分、何か自分にできることで誰かを助けることができればいいのです。

コロナ禍のせいで、まだ当面の間は、辛いこと、慣れないこと、答えがなく困難なことが続くかもしれません。でもきっともう少しすると幸せに転ずることでしょう。「辛」という字の上の点を十にすれば「幸」という字になるように、辛い出来事を十乗り越える頃には、全てが幸せに転ずると信じています。

新しい年にはコロナの不安がなくなり通常の生活が戻るように願っています。教育振興会の皆様方には本校の教育活動に対しまして、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

少しずつ、一歩ずつ

教育振興会副会長 生田 広美

今年度は年明け早々から、コロナの影響ですべての人々が振り回される日々が続きました。

ことに今年度入学された生徒の皆さん、保護者の皆さんは大変な心配と不安を抱える日々を送られたと思います。

役員を決めても活動が出来ないという年でありました。

卒業年次の皆さんも今後の進路に大きな心配と不安を抱えての毎日だったと思います。

いつになったら、この事態が収まるのか、いつになったら普通の生活に戻れるのか、先の見えない毎日を送られてきたと思います。

その限られた生活の中で、生徒の皆さん、先生方は、出来る事を探し、話し合い、学校生活をより良くする為に奮闘されてきた事と思います。

今年度は、役員として、保護者として何も手を差し伸べてやる事が出来なかったと後悔してしまっていますが、その中でも生徒の皆さんは又一つ困難を乗り越え、大変な一年を終えようとしているのだと思います。

この大変な時季を乗り越えられた皆さんは、この先社会に出ても、必ず困難を乗り越え一つずつ成長していけると信じています。

急にはこの生活が変わると思いませんが、少しずつ、一歩ずつ前に進めて行ければそれで良いと思っています。

風に乗って

教育振興会副会長 平井 紀子

「風の時代がやってきた。」

と最近よく耳にする。約二百年前の産業革命頃から始まった「土の時代」では物や形あるもの、人はみな所有することを求め、組織や権威に価値を見出してきた。

これに対して「風の時代」は、風が目に見えないのと同様に、情報や知識など形のないものが重視され、人々はそれらを共有することを求めていると言われている。

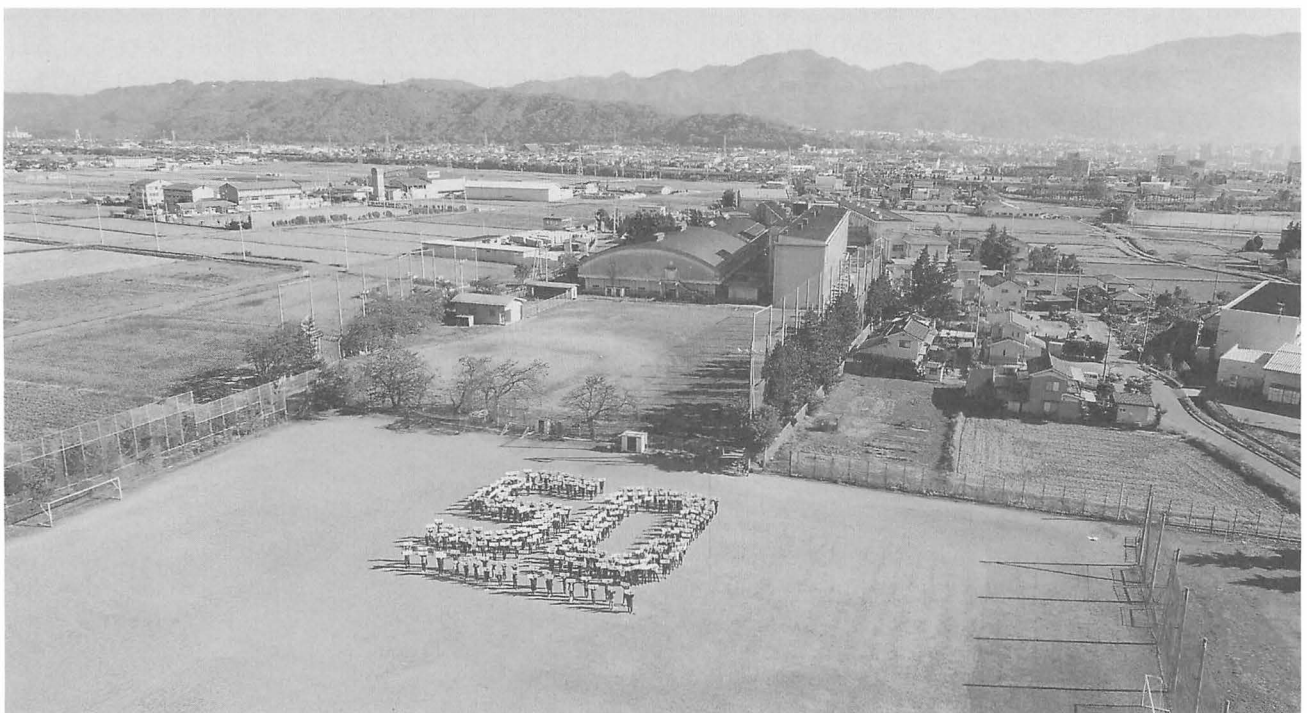
ではこれからの「風の時代」をどう生き抜く？

昨年より世界を脅かすパンデミック。これにより私自身が体感したことは人とのコミュニケーションの大切さだ。この状況下で対面することこそできずとも、インターネット等を介していくらかでもコミュニケーションを取れる環境はある。しかも日本だけに留まらず、世界中の人々と繋がることもいとも簡単にできてしまう。

しかしながら私が強く感じることは、やはり一番は実際に会って話すことの重要性だ。五感をフルに活かしコミュニケーションを取ることは、私たち人間に与えられた宝物。

この宝物が大いに活かせる「風の時代」。IT等も駆使し情報を共有しつつ、人と人の繋がりに感謝しながら、個人を尊重し合い高め合っていく…そんな時代にシフトしていくと願う。

いつかパンデミックが終息し、心地よい風を感じながら、人々の愛が循環する日々を願って…。



保護者の課外活動

★★コロナ時代に思うこと★★

今まで経験したことのない未曾有の感染症拡大で、新しい生活様式を余儀なくされています。子供たちも今まであたりまえに行われていた学校行事や授業が、形態変更や中止となり、本当に「もうらしく」思います。でもこの状況を憂いているだけでなく頑張っって前向きに捉え、今できることを考え、有意義に楽しく生活したいですね。今年の広報委員のページはこのテーマはこんな時代に思うこと。家族とのエピソード、私生活や仕事で大変なこと、新生活を楽しむ工夫等、委員の皆さんから寄稿してもらいました。

☆「楽しむ断捨離」

会合や行事がなくなり、仕事もテレワーク併用で、家で過ごす時間が増加。今まで後回しにしていた片付けをするようになり、自然と断捨離生活になりました。祖父母、親とも物を溜め込む性格で、私もそうなのですが(笑)、うちの中は古いものがぎっしり！ 思い出として保存するのか、使えるけど実際使うのか、個々の物と向き合うことになりました。その結果、出てくる大量の不用品を誰かに使ってもらえないか…そんな考えから「不用品をあげたりもらったりする」グループをウェブ上に作りました。物を手放す前に投稿のために写真撮りすることで、わりと抵抗なく断捨離できるし、もらう人は喜んでくれるし、いい活動になっていると思います。

現在会員500人を超え、夫婦二人で管理人に。我が家以外にもいろんな人からの不用品が投稿され、割と活発なサークルになりました。

(4年次 K.H)

<https://www.facebook.com/groups/dansyari.matsumoto>

☆あるアンケートによると、このコロナ禍において自粛生活を強いられる中、夫婦仲が悪くなったという夫婦より良くなったという夫婦の方が多かったというのがありました。一緒にいる時間が増えて会話する時間が増えたからだそうです。なるほど納得です。場面は変わりますが私の職場でもお弁当の時間はしんみり。ちょっと物足りなく感じています。コミュニケーションの大切さを改めて感じています。

(2年次 M)

☆コロナが流行してから約一年。私自身の生活の変化は外出時のマスク着用くらいですが、子ども達は今まで当たり前だったことが制限され、我慢しないといけない事ばかり。限られた時間の学生生活は影響がとても大きいと思います。たくさんの行事やイベントが中止になり、何度「コロナだから仕方ない」という言葉を口にしたことか。早く以前のように自由気ままな子どもらしい生活を送らせてあげたいものです。

(1年次 K)

☆あって当然と思われていた自由と安心が奪われ、誰もが感染の危険がある状態に変わった今、私達は何をすべきでしょうか。感染防御の基本です。しっかりやればほぼ確実に感染を防ぐ事ができるそうです。自身の忍耐力や想像力が欠如し欲望に負けて自ら感染の危機を招き入れている事はないでしょうか。私達には守らなければならない大切な人がいます。その為に自分を護りそして地域を衛るという事を忘れずに乗り越えていきましょう。

(1年次 M)

☆東京にいる両親や姪っ子達と以前のように気軽に会えるのはいつなんだろう。8年続けている和太鼓も演奏会どころか練習も3密になるから思うようにできないと悩む娘。あげだしたらきりが無い程できない事がまだまだ多い。今まであたりまえにしていた日常がこんなにも幸せなことだったのかと痛感しています。だからこそ、子供達には、今できることを大切に毎日を充実させてもらいたいと思っています。

(4年次 K)

☆スーパーへ行くと自ら進んでアルコールをプッシュとし手になじませる6歳の末っ子。そして、マスク姿。今は「当たり前」になっている日常の様子。その姿を見て考えさせられる。ほんの1年前は「当たり前」じゃなかったのにと。今まであって「当たり前」だった行事もコロナによって中止や延期、制限を設けての開催となりとまどいの1年。「当たり前が当たり前じゃなくなった時」はじめて平穏な日々へのありがたみを感じた。この思いを忘れないようにしていこうと改めて感じた。

(4年次 KS)

生徒の活動

コロナの副産物

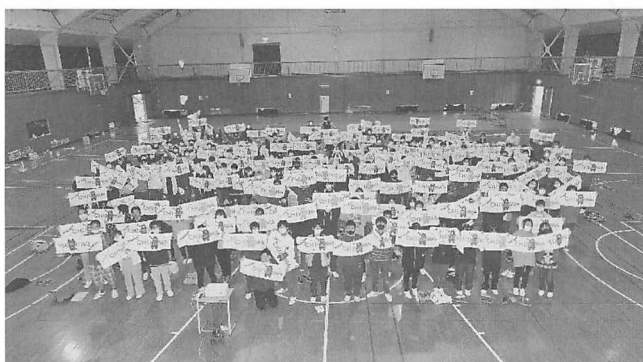
午前午後部生徒会長 奥山 ひいろ

「もしコロナが流行していなかったら、どうなっていたんだろう。」この1年間、何度も考えました。

最初は昨年度、3月の一年を振り返る会の時です。今期、生徒会初めての行事で、苦戦しながらも張り切って準備をしていました。しかし、直前で会の中止と休校の知らせが。どうして、でも仕方ない。やり場のない思いが残りました。

約2ヶ月間の長い休校を経て学校が再開すると、私たちは「今できること、今しかできないことをしよう。」と気合いを入れ直し、前を向きました。活動の中で一番の課題となったのが、感染症対策です。特に行事では全校が一カ所に集まることができないため、「例年通り」は通用しません。距離を保ちつつも全員で楽しむにはどうすればいいのか、内容を1から見直しました。

ほとんどの行事は放送で行いました。中でも生徒総会と生徒会ガイダンスは、音だけになってしまう



分、淡々とした会にならぬよう工夫を凝らしました。反応を直接見ることができず不安でしたが、とても好評で楽しんで頂けました。

最も力を入れたのが、「くれきの祭」です。「全力疾走!～今しかできない挑戦を～」を掲げ、密集を避けるため会場を2つに分けて開催しました。クイズ大会と初めての試みであった「第1回くれき野祭大運動会」はクラス対抗型。クラス単位で協力する機会があまりなかった中で、団結力を高めるいい機会となりました。そして、「今しかできない挑戦」として企画したのが、ドローン撮影です。本校50周年記念に合わせて「50」の人文字を作り、空から撮影。どの生徒も間近で見るドローンに興味津々で、とても盛り上がりました。

コロナは、私たちに色々なことを教えてくれました。困難を乗り越えた先の達成感や感動。仲間がいる喜び。例年通りという受動的な活動ではなく、自分たちで考え実行する能動的な姿勢の大切さ。コロナがない方が楽しい1年になったかもしれません。それでもこのコロナ禍の経験は、私たちに大きな成長をもたらしてくれました。



来年度へ繋いで

通信制生徒会長 古林 稲波

今年度の生徒会は昨年度よりも役員の数が増えたことで、やれることの幅も増え、もっと色々なことに挑戦できるのだと思っていました。しかしコロナウイルス流行による休校でしばらくはなんの活動も出来ず、生徒総会や運動会など前期の主だったイベントは中止になっていきました。

しかし、後期にはスクーリングも概ね通常通り行えるようになり、文化発表会も開催できることになりました。後期新入生も生徒会に加わり、文化発表会の準備は役員の数々の多さを生かし効率的に進めていくことができたと思います。今年度の文化発表会

での生徒会企画は「先生紹介ビンゴゲーム」を行いました。ルールは普通のビンゴゲームと同じですが、ランダムに出た番号の先生の親しみやすいような紹介もしていくというものです。パワーポイントを使い、あらかじめ撮らせていただいた写真と質問を表示し、分かりやすく楽しめる工夫をしました。そして紹介出来なかった先生も知ってもらうため、写真と紹介をパンフレットにして参加者全員に配りました。反省点も多かったですが、参加者の方から楽しかったとの声も頂き、良い企画になったと思います。

残念ながら、今年度は生徒会が主体となって活動できた行事は少なくなりましたが、その分来年度へ向けて引き継ぎや整理などに力を入れることが出来ました。来年度は今年度の不完全燃焼も糧に、より良い活動に繋げて欲しいと願っています。

本年度の生徒会行事

生徒会顧問 有賀 正典

夜間部生徒会では、4月7日に対面式を行った後、学校が休校になったため活動が休止状態となりました。6月に学校が再開されて、6月23日に初委員会、クラブ発足会を行い、生徒会活動が再開され、主に次の4つの行事を実施しました。

①7月17日 第1回スポーツ大会

スカットボール・ラダーゲッターなどの4種類のニュースポーツを実施。

②10月30日 ハロウィン学校謎解きゲーム

くれき野祭に替わる行事として、生徒全員が参加して楽しめる行事を実施したいという生徒会役員の要望により、ハロウィンに合わせて照明を消した

真っ暗な校舎内を謎を解きながら回りゴールを目指すというゲームを実施。

謎解きの問題の作成から、会場の準備まで、数名の生徒会役員で準備しました。真っ暗な校舎の中を歩き回るのは、危ないのではないかなど懸念事項はありましたが、無事終了し、生徒も充分楽しむことができたようでした。

③11月7日 第2回スポーツ大会

バトミントンのダブルスを実施

④12月17日 クリスマス・カードゲーム大会

UNOとババ抜きなどの2つのゲームを実施。

11月下旬に生徒会役員選挙があり、新役員体制になって初めての行事でした。

どの行事も生徒会役員を中心に、生徒の皆さんが皆協力的で、和やかに実施できたと思います。



書道部の活動

書道部部长 四年D組 廣田 翔

今年度の活動は、六名を中心として活発に活動することができました。

最も力を入れたのは、くれき野祭での書道部展です。新型コロナウイルスの影響で、くれき野祭は縮小して行われましたが、作品展示の期間を二期に分けて長期間設定していただいたので、保護者懇談会期間中も展示することができました。クラブ活動の開始も二ヶ月遅れとなり、作品制作には苦勞をしましたが、時間を掛け、皆集中して最後までこだわって制作しました。まずは半切サイズの作品に取り掛かり、畳半分程の縦長の紙に中国の古典を臨書しました。千年以上前の石碑の文字などで、長い間名品として伝わってきたものです。部員それぞれが古典から感じたイメージを大切に、千年の歴史に圧倒されないよう、何度も何度も書いて仕上げました。

他に、長野県高等学校書道展（松本市美術館）や

島立地区芸術文化祭（島立公民館・体育館）に出品して発表することができました。広い会場に展示されるのは、とてもうれしかったです。

他校では新型コロナウイルスの影響で、新入部員が少なかったと聞いていますが、今年度の本校の書道部は、一年生が何人も入部してくれました。現在も四名を中心に篆刻をしたり小作品を制作したりして活動しています。後輩と一緒に活動してきた四年生二名はこれで卒業しますが、これからも遠くから応援したいと思っています。



令和元年度 文化部活動成果

●写真部

写真甲子園2020

4 B 上條亜衣果 2 B 赤塚佑一郎

2 D 坪田 星空

「雨上がりのassemble color」

北信越ブロック2回戦進出

第27回 長野県高等学校写真展

応募10作品中6点展示

(5点ノミネート=入賞候補作)

ノミネート

4 B 上條亜衣果 「シズクの叫び」

4 B 後藤 岳哉 「一所懸命」

3 B 嶋田 力久 「一休み」

2 B 赤塚佑一郎 「休日の昼下がり」☆

2 B 赤塚佑一郎 「お手入れ中」

展示

4 B 上條亜衣果 「その先に待つもの」



●書道部

第36回長野県高等学校書道展 出品

1 B 降旗 夢佳 1 F 小島 結生

1 F 待井 彩伽 4 C 飯沼 姫夏

4 D 廣田 翔

●美術部

第74回松本学美展出展作品

4 D 岡田 美優 「渴望」

4 A 野田満優音 「夏のひととき」

3 B 北島 茉奈 「微笑み」



令和2年度 定通体育大会結果

令和2年度 第55回中信高等学校定時制通信制秋季体育大会
兼 長野県高等学校定時制通信制総合体育大会代替中信地区大会

●日時：令和2年10月31日（土）

●場所：松本筑摩高校 西体育館

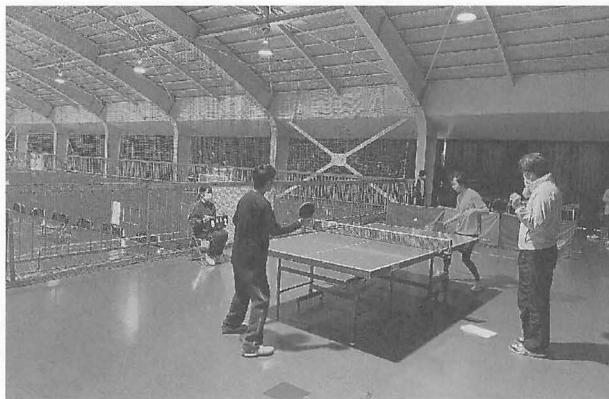
●バドミントン

男子個人 2位 須山セルソ和広山（筑摩・午前午後）
3位 本海斗（筑摩・午前午後）
女子個人 1位 福井夢華（筑摩・午前午後）
3位 伊藤凜（筑摩・午前午後）



●卓球

男子個人 1位 中村鴻太（筑摩・通信）
2位 永原健斗（筑摩・通信）
3位 小林英智（筑摩・午前午後）
4位 重野大輝（筑摩・午前午後）
女子個人 2位 小松美波（筑摩・午前午後）
3位 浜田麗美（筑摩・午前午後）



令和2年度 長野県高等学校体育大会体操競技大会 新体操大会（男子）
兼第55回 長野県高等学校新人新体操選手権大会

男子個人 総合優勝 午前午後部 2B 室賀 友祐
男子種目別 ロープ 優勝
クラブ 優勝